



ふくりゅう

特定非営利活動法人
日本下水道文化研究会会報

発行責任者 酒井彰(運営委員会代表)

平成16年7月10日
通巻38号

第8回日本下水道文化研究会・総会報告

去る5月22日(土)、13:30から16:30にわたり、日本水道協会会議室において第8回日本下水道文化研究会総会が開催されました。

まず、西堀代表評議員から、本会の活動に絶大なご支援ご協力を頂いた会員の皆様への謝意が表せられるとともに、NPO法人となって5年が経過する中で、特に衛生の原点・地球規模の衛生の改善を考える・をテーマとした海外技術協力研究会の発足と、その具体的なプロジェクトである地球環境基金の助成金交付を受けた「バングラデシュ農村地域における衛生改善のための普及啓発活動」に対する抱負と期待が述べられました。

続いて本会副代表である木村淳弘氏が議長に選任され、総会の議事に移りました。審議された議案は以下の通りであり全て滞りなく承認されました。

第1号議案：平成15年度事業報告の承認ならびに会員の現況報告に関する件

第2号議案：平成15年度収入支出状況報告及び会計監査の承認に関する件

第3号議案：財産目録の承認に関する件

第4号議案：役員の変更に関する件

第5号議案：平成16年度事業計画及び予算に関する件

第6号議案：総会議事録署名人の選任に関する件

議案の報告は、主として本会酒井代表、佐藤運営委員が行い、また関西支部、し尿研究会の活動については、それぞれ大西委員、地田委員より説明がありました。

* * *

総会終了後、酒井代表からバングラデシュの水事情や、プロジェクトの概要の説明があり、熱心な質疑がかわされました。そして昨年開催された第3回世界水フォーラムの事務局長を務められた尾田栄章氏による『水を考える - 水と文化 -』と題した記念講演を賜りました。パリを流れる

セーヌ沿川を走る自動車専用道路を、海岸に見立てた砂浜として水辺整備した事例の紹介を皮切りに、ローマの水道、パリの下水道、食料品などの輸入に伴うヴァーチャル・ウォーター、上下水道市場と民営化、第3回水フォーラムでの多様な価値観を持つ団体による議論の展開と運営など多岐にわたる内容についてお話を頂きました。

講演もほぼ終わりに近づく頃、本会の掲げる「下水道文化」とは何か、そして本会の主た

る活動について質問されました。酒井代表の説明に対して、我が国がかつて有していた循環システムとしての下水道システムを西欧型の近代下水道システムに対してどのように再評価していくのか、また本会がバングラデシュで取り組もうとしている草の根プロジェクトをいかに活性化していくかなどについて、本会の取り組みへの認識を共有していただけたものと思います。

なお尾田先生は、NPO法人日本水フォーラムの立ち上げに奔走されており、ご多忙の中講演して頂きました。昨日(5/21)も大きな会議があったとのことであり、その余韻の残る講演でありました。講演録は次年度の機関誌に掲載いたします。(運営委員 高橋邦夫)

新運営委員からの自己紹介

第8回総会で運営委員に指名されました高橋邦夫と申します。1949年、宇都宮市に生まれ、1972年、信州大学工学部土木工学科を卒業とともに(株)日水コン(当時、日本水道コンサルタント)に入社致しました。入社後、まず下水処理場の設計を手始めに、そして1979年の第二次オイルショックを契機とした下水処理場のエネルギー有効利用調査、その結果として、戦後我が国初の沖縄那覇下水処理場への消化ガスエンジンシステムの導入に到る一連の調査・計画に携わることができたことは幸運と思っております。

その後、琵琶湖流域別下水道整備総合計画や下水処理技術を主な施策とした河川水質汚濁防止計画、河川環境整備に関わる調査・計画などの業務にシフトし、近年は都市域における水辺計画を主業務としております。1989年～1991年にわたり(財)リバーフロント整備センターに出向したことも関連しております。☞2ページへ続く



講演される尾田栄章氏



懇親会の後で

2004年バルトン忌のご案内

バルトン先生没後 105 年となる 2004 年、今年もまたバルトン先生をめぐる思いがけないニュースが当研究会にもたらされ、さまざまな方のご厚意により興味尽きない楽しい内容のご案内をお届けできることとなりました。

暑い中ですが、多くの方のご参加をお待ちしております。
(会員以外の方も歓迎、午前/午後の片方のみ参加可)

記

1. 日時 2004 年 8 月 7 日(土曜日)

2. 行事内容・集合時間と場所

[午前の部]

バルトン先生墓前での献花など(バルトン先生曾孫の鳥海幸子さんも御出席の予定)

集合 11:00 青山墓地・島村花店待合室

東京都港区青山 2-3 4-3 1 TEL 03-3401-2682

日本下水文化研究会・担当者携帯 090-2301-8513

[午後の部]

講演会 『明治 21(1888)年 磐梯山噴火の幻灯写真』

講師 国立科学博物館 理工学部理工学第一研究室

室長 大迫正弘先生

集合 14:00 日本水道協会 水道会館 会議室

東京都千代田区九段南 4-8-9

2003 年バルトン忌の直後、NHK TV で、『明治 21 年 磐梯山爆発』の貴重な写真が見つかった、というニュースがありました。このニュースを契機として、滋賀県立大学・細馬教授(2002 年バルトン忌において『浅草十二階』について御講演)と、バルトン研究家・石井貴志氏(バルトン忌においてコナン・ドイルの御講演、バルトン撮影の相撲写真の御紹介などの実績)の調査により、バルトン先生撮影による磐梯山爆発の写真の存在が明らかとなりました。これを受けて、本年は、大迫正弘先生から国立科学博物館所蔵の『磐梯山噴火の幻灯写真』について御講演いただくことといたしました。

大迫先生は、1947 年東京生まれ、東京大学大学院地球物理学研究室で、故・竹内均教授の指導を受けられ、『地球内部をつくっている物質の物理的性質の実験』をテーマとして研究を続けておられます。迫力ある噴火写真、幻灯写真の収納箱など、幻灯風の写真とお話をどうぞお楽しみ!

なお、2004 年 1 月、宮内庁書陵部に磐梯山噴火の写真

(1 ページより続く)

本会とのこれまでの関わり合いは、発足当初からの会員ではあったものの、2 年毎に行われる下水文化研究発表会の論文数が足りなさそうなとき(?)、酒井代表からの協力要請に応じてきた程度でした。今回、委員に推され、運営委員会や定期的・不定期的な行事への参加を通して実感することは、好奇心に溢れ、労を厭わない能動的なメンバーの多岐にわたる活動です。

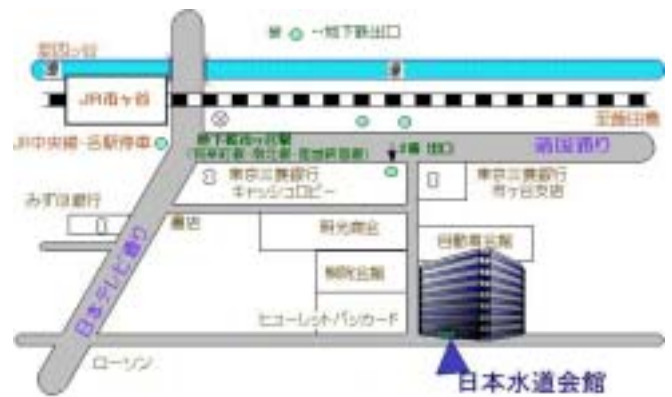
好奇心と体力だけは年齢相応以上に秀でた特質と自負しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

21 点が保存されていることがわかり、京都大学・鎌田教授(火山学)の調査では、その中にバルトン撮影のものが含まれていることは確かだということです。2004 年中に内閣府から報告書が出される予定とのことですので、続報をお待ち下さい。

このほか、石井貴志氏が、バルトン先生の長女タマさん、台湾の水道施設、浅草十二階などの写真数葉を幻灯風に写して下さる予定です。



磐梯山噴火の幻灯写真より。上から墳口内岩石、斜面からの墳気、渋谷村の潰家(いずれも W. K. Burton 撮影) 出展: 大迫正弘、細馬宏通ら「磐梯山噴火の幻灯写真」、国立博物館報 Ser. E, 26, pp1-9, Dec. 22, 2003



バルトン忘会会場案内図(上段：午前、下段：午後)最寄り駅は、島村花店：東京メトロ外苑前駅(銀座線)あるいは乃木坂駅(千代田線)、日本水道協会(水道会館)：JR及び東京メトロ(有楽町線、南北線)市ヶ谷駅。

第28回し尿研究会例会報告

平成16年6月4日(金)、東京・飯田橋の東京ボランティア・市民活動センターで「第28回し尿研究会例会」が開かれました。テーマは「工藤庄八氏と武藤暢夫氏の屎尿処理分野における活動と貢献」です。お二人はともに戦後の混乱期に屎尿処理の分野で、行政あるいは研究のそれぞれの立場で活躍された方々です。

例会では、工藤氏のお宅を訪ねて本会会員らが行ったインタビューの際に、石井明男さんが撮影したビデオを放映するとともに、武藤氏の講演記録を紹介しました。石井さんが所用で出席できなかったため、地田修一さんが進行役を、お二人を知る稲村光郎さんが説明役となって例会を進めました。

武藤氏の講話は既に「トイレ考・屎尿考」(技報堂出版)に掲載されていますが、映像を拝見し音声を拝聴して、活字になったものの行間にあふれている人間としての感情のほとばしりをあらためて体感することができました。バキュームカーの開発に関連して、「全国から多くの人

見学に来ました。川崎市を訪れた人には広く技術を公開しました。屎尿の収集は、もっとも立ち遅れていた作業でしたので、能率向上が緊急課題でしたから。」との言葉は、工藤氏の人柄を端的に表していると思いました。

また、武藤氏の講演は「ごみ文化研究会」におけるものでしたが、戦後の屎尿をめぐる時代背景(赤痢や腸チフスの流行、寄生虫病の撲滅活動)を知るには最適な内容でした。特に「屎尿分離式トイレ」に関する話の中での、「ただ屎尿分離式トイレを作っただけでは回虫卵はなくなる。駆虫薬を飲んでもらって駆虫をして、それでトイレを使ってもらわないと駄目です。」は、経験者としての重いのコメントとして受け止めるべきでしょう。

本研究会は、会員以外の方からの講話も何回か企画していますが、いろいろな事情で会場にお出でになれない方からの講話も、このようなビデオあるいは録音テープを駆使すれば臨場感のあるものになることがわかりました。今後の例会の企画に生かしていきたいと考えています。

(し尿研究会会長 地田修一)

第29回・第30回し尿研究会例会のお知らせ

	第29回	第30回
日時	平成16年9月24日(金) 18時30分より	平成16年10月22日(金) 18時30分より
講話者・演題	平田純一氏(本会会員) 「衛生陶器のできるまで」	関野 勉氏(本会会員) 「世界のトイレ博物館を巡って」
内容	衛生陶器が世に出るまでの開発段階における苦労話を、講話者自らの開発秘話を交えて語るものである。	ドイツ・ミュンヘンの「おまるの博物館」、オーストリア・ラウフィンの「トイレ博物館」それにインドのニューデリー・「スラブ・トイレ博物館」を見学した際に撮影したビデオや写真、入手した図書を紹介するものである。
場所	東京ボランティア・市民活動センター 新宿区神楽河岸1-1 TEL: 03-3235-1171 JR、地下鉄 飯田橋駅下車徒歩1分	セントラルプラザ10階 C会議室(第29回) A会議室(第30回)

平成16年度予算書の修正について

4月24日に日本下水文化研究会評議員会が、西堀清六代表評議員ほか3名の出席のもと評議員会が開催されました。このなかで、地球環境基金へ助成を申請している海外協力事業の会計、及び本年度の会費請求に際してカンパを募らせていただきましたが、その使途について議論が交わされ、評議員会から次の意見が提出されました。

- 海外協力事業は、地球環境基金の助成金が平成16年度に交付される場合、特別会計を設け、会計の独立性を担保することが認められるため、予算議案書の一部を修正し該当議案書の差し替えを行うよう意見を具申します。なお、海外協力事業が軌道に乗

るまでの間、本会の財政状況の逼迫を考慮すれば会員有志等から寄付金を募る措置を講じることは適当と認めます。

この意見に基づき、運営委員会では海外技術協力事業特別会計を設けること、寄付金・カンパの使途として海外協力事業への配分を優先することとし、予算書を一部修正することとしました。

カンパの募り方が拙速であったこと、その分を予算書に反映しなかった点反省するとともに、貴重なご意見をいただいた評議員各位に感謝いたします。

総会当日、この意見書を説明するとともに予算書修正案についても審議の上承認されたことを報告いたします。

予算書修正内容

予算修正の概要は以下のとおりです。

(収入の部)	旧	修正後	予算根拠
寄付金	500,000	800,000	会員有志からの寄付金300,000加算
収入合計	3,982,679	4,282,679	

(支出の部)	旧	修正後	予算根拠
海外協力事業特別会計繰り出し金	-	500,000	新たに設けた特別会計に500,000円繰り出すとともに会員有志からの寄付金を海外技術協力分科会への支援費とする。
分科会活動支援費	550,000	350,000	
支出合計	3,856,090	4,156,090	

「2005年雨水東京国際会議」への始動

去る4月24日(土)14:00～17:00、すみだ環境ふれあい館(墨田区文花1-32-9[旧文花小学校])において雨水東京国際会議(仮称)実行委員会準備会が開催されました。「雨水利用を進める全国市民の会」(会長:辰濃和男氏、事務局長:村瀬誠氏)の呼びかけによる参加団体は、主催団体である上記全国市民の会を含む17団体におよび、遠くは沖縄からの参加者も含め、約40名が集いました。会議の主旨は、平成17年8月5日(金)～7日(日)に開催予定の東京国際会議に向けての、これまでの活動実績と経緯、活動内容と組織運営、行程に関わる内容の確認でした。国際会議開催の主旨は、次の通りです。

『平成15年3月、「世界水フォーラム雨水利用in京都」において、地球規模で水危機が深刻化する中で、その切り札としての雨水利用を推進していくために、産官学民による雨水利用推進の機構整備が提起された。平成6年8月に開催された「雨水利用東京国際会議」から10年が経過した現在、昨年の世界水フォーラムの成果を受け、産官学民による雨水利用のネットワーク化と国際雨水センター実現に向けた道筋を明らかにしていく』ことです。

具体的には、「世界水フォーラム」で提起された、雨水利用の技術開発、技術者の養成、意識啓発、制度化などの実践的な諸課題を解決していくための産官学民のネットワークづくりであり、東京国際会議では次の2点を明らかにすることを目標にしています。

これら課題に関する取り組みの方向性

地球規模での産官学民の雨水利用ネットワーク機構整備の道筋

準備会に引き続き、6月20日(日)14:00～17:00、すみだ環境ふれあい館で、雨水東京国際会議実行委員会が開催されました。雨水市民の会のメンバーや関連団体、約50

人が集いました。主な議題は、実行委員会の組織体制(総会、幹事会、事務局等)、運営方針(会則)、会議の企画に関する自由討議、プレ会議の開催等についてでした。

会則の説明に引き続き、委員長、副委員長が選出され、委員長には辰濃和雄氏(雨水市民の会)、副委員長には、学・民・産の代表としてそれぞれ、本会酒井彰代表、水野育成氏(関西雨水利用を進める市民の会)、徳永暢男氏(雨水利用事業者の会)が選出されました。

前回会議の名称が「雨水利用東京国際会議」であったのに対し、今回の会議名から「利用」を削除した意図は、雨水は「生命の源泉、いのち、恵み」であり単に利用するものにとどまらないとの思いを込めたものである、例えて言えば、お地蔵様に利用を付ける表現はないとの辰濃委員長の説明には感銘を受けました。

その後、会議で取り上げたいテーマについて自由討議が行われ、キーワード的に羅列すれば「水循環」、「手元の安心な水源」、「保水型下水道」、「水道水に代わる雨水」、「ダムはもういらぬ」、「開発途上国への支援」、「山岳トイレ」などが挙げられました。

今後の実行委員会の具体的な活動展開は、1回/月くらいの開催頻度で進行していくものと予想されます。本会として参画する「テーマ」、「企画」などについて、広く会員の皆様のご意見、アイデアをお寄せ下さい。

(運営委員 高橋邦夫)

2005年雨水利用東京国際会議 プレ会議のご案内

日時 8月7日(土) 午後1時30分から2時30分

会場 墨田区役所 13階131会議室

講師 高橋裕 東大名誉教授・世界水会議理事

テーマ 「地球の水が危ない - 雨水に期待する - 」

資料代 500円

本会海外技術協力事業が地球環境基金助成金に採択されました

総会報告の中でもふれられていますが、日本下水文化研究会が地球環境基金(平成5年5月に国及び民間の拠出をもって環境事業団に創設され、平成16年4月1日より独立行政法人環境再生保全機構へ移管)に助成金の申請をしておりました海外技術協力プロジェクト「バングラデシュ農村地域における衛生改善のための普及啓発活動」に対して、500万円の助成金が交付されることになりました。

総会準備の最中ではありましたが、詳細なトイレの図面を作成したり、現地NGOとの間で活動内容をe-mailで確認し合ったりの準備を進め、6月3日から10日にかけて第1回の訪問を行いました。今回訪問の目的は、予定されているプロジェクトサイト訪問、現地NGOとの役割分担の明確化と契約交渉、トイレの設計に対するバングラデシュの人々の感触をつかむことなどでした。メンバーは、酒井、トイレの原案作成ならびに経理担当の佐藤八雷さん、トイレの図面を起こし、細部の設計を行ってきた保坂公人さん、そして佐藤さんがこの1年何度か長期の海外業務に携わることになっているため、その間の経理を担当していたたく佐藤祐子さん(八雷さんの奥様)の4名、そしてダッカ滞在中の運営委員の石井さんにもいろいろ相談させてもらいました。

短い滞在とはいえ、簡単には書ききれないほど多くの経験をしました。例えば、バングラデシュのNGOが今回のように海外の資金で活動するときのお金のやり取りの仕組みやそのための申請手続き、なぜそうしたことが必要かといったことなど国情の違いを痛感しました。正直に申しますと、第1回訪問後ほぼ1ヶ月経ちますが、当局への申請準備段階のようです。

バングラデシュを訪れて、やはり一番よかったことは現地の人たちとの交流でした。衛生の問題については井戸水のヒ素問題のように住民の関心はまだ高くはないかもしれませんが、何とか多くのの人たちが問題に気が付くようになり、改善しようという意志を持ってもらえることにつながるプロジェクトにしたいと思っています。

さまざまな紆余曲折がありましたが、帰国後、次回からの訪問で実際にトイレ建設に携わる方々との会合を持つことができ、1年目の実施体制は整いつつあります。ただし、契約交渉がこちらが当初予定したようには進んでいないこと、トイレの建設以外の活動内容についてのサポートなど、会員の皆様のご協力を仰ぎたく思っているところは少なくありません。ご支援のほどよろしく願い申し上げます。(酒井彰 記)

東本願寺と環境を考える市民プロジェクトから

東本願寺と環境を考える市民プロジェクトは、ほぼ月1回のイベントを行ってきました。本会からも多くの方が参加しました。

- 4月24日：本願寺水道を歩こう会
- 5月22日：ふるしきワークショップ in 涉成園
- ふろしきと日本庭園に遊ぶ -
- 6月19日：初夏の生き物観察会 in 枳穀邸

「本願寺水道を歩こう会」では、明治時代に建設された琵琶湖疎水の水を防火用水として東本願寺へ導くために造られた本願寺水道に沿って、晴天の京都の街を水道沿線の水にまつわる話を聞きながら心地よく歩きました。

ふるしきワークショップでは、講師(ふるしき文化研究会の森田知都子氏)から、ふるしきの今と昔についてお話や実際の活用法をうかがいました。その後、庭園にて、班ごとにインスタレーション(その時、その場所で表現すること)や参加者が持ち寄った色とりどりのふるしきを繋ぎ合わせ、人と人とのつながりのを体感したりしました。

初夏の生き物観察会では、京都精華大学の板倉豊先生を講師にお迎えし、涉成園にすむ生き物を観察しました。涉成園は、京都駅前にもかかわらず、数多くの昆虫や鳥などが生息していることに、驚かされました。観察会の後は、ネイチャーゲームで楽しんだ後、暗くなってからは10万人のキャンドルナイトに参加しました。電気を消して和蝋燭の明かりのもとみんなで座談会をしました。なお、期待されたホテルは、枳穀邸でも近くの高瀬川でも見ることはできませんでした。

この日は、「市民プロジェクト」発足の東本願寺側の立役者である蓮容健さんが6月いっぱい退職されることから送別会を開きました。市民プロジェクトの経過については下記URLに写真とともに掲載されています。

<http://www.tomo-net.or.jp/go/info03.html>

次のイベントは、東本願寺のお堀についてです。当初清掃しようという案や「お堀で遊ぼう」といった企画もありましたが、9月に行われる「下京ルネッサンス」に協賛し、「東本願寺のお堀探検～堀から環境を考える」という催しに発展することになりました。木村関西支部長を中心にしたプロジェクトチームが、試行錯誤しながら企画を進めています。

お堀を浚うことで採取された「ごみ」を展示したり、お堀に生息する外来種を含めた生物を水槽で展示することなどが案としてあがっているほか、地域防災学習の場、すなわち、いざというときの堀水の活用法などを含め、環境と防災の学習の場を提供し、地域コミュニティの場を作ることを目指しています。防災やビオトープの分野で活動するNPOも参加する意向を示しており、ネットワークの輪が広がりつつあります。

開催日時は、9月5日(日)で、午前中、境内南側のお堀を探検し、その後門前市に出展する予定です。ごみ、生き物、防災など多くの会員が関心をもたれているテーマに関わるイベントです。参加されるばかりでなく、アイデアなどがありましたら、木村支部長までお寄せいただければと思います。(酒井彰 記)

バングラデシュスタディーツアーのご案内

5 ページでご紹介いたしました海外技術協力活動では、バングラデシュにおける衛生改善普及を促進するとともに、事業実施にかかる関係者のパートナーシップの増進を目的としています。その活動の一環として、この課題に関心を持っておられる社会人・大学生の皆様を対象としたスタディーツアーを企画しております。ふるってご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

記

日時 平成 16 年 8 月 26 日(出発) - 9 月 5 日(帰国予定)

費用 160,000 ~ 165,000 円/人を予定しています。

(参加者人数、宿泊先によって多少変動するかもしれません。)

費用に含まれるもの：航空運賃、宿泊費、バングラデシュ国内の食事代、交通費

別途負担いただくもの：成田・関空空港までの交通費、任意保険

スケジュール案(訪問先)

■ 日本下水文化研究会プロジェクトサイト：トイレ建設現場を視察し、現地のコミュニティーの皆さんとの共同作業に参加していただきます。

■ ダッカ市内のごみ・上下水道施設の視察：ダッカ市の担当者(予定)が現状を説明します。

■ BARD：バングラデシュ東部のコミラ市を中心にして農村開発、環境改善などに取り組んでいる研究教育機関を訪問し、意見交換をします。事前に希望するセクション(農業と環境など)をお聴きしたいと思います。

■ 雨季のガンジス川視察(船で対岸に渡る予定です)

申し込み締め切り 平成 16 年 7 月 19 日(金)

問合せ先 酒井 彰まで

TEL&FAX 045-548-2187、sakai_a@khaki.plala.or.jp

運営委員会・事務局より

ふくりゅうの送付方法について：すでにご連絡しておりますが、今後会報ふくりゅうは電子メールでの送付を原則とし、その方法では入手できないという方には宅配メール便で送付することにしております。送付を希望される方はその旨、FAX 等にて連絡いただくことになっておりますが、現在のところ 33 名の方から連絡いただいているのみです。連絡のない方のなかにメールアドレスの分からない方も少なからずおられます。会員の方にはご不便をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

寄付金ありがとうございました：4 ページでも触れておりますが、会費納入に際してカンパをお願いしましたところ、約 30 万円という多額のご寄付をいただきました。寄付金の目的、目標額などもきちんとお示ししなかった点などお詫びいたしますとともに、運営委員一堂深く感謝しております。評議員会のご意見に基づきまして、海外技術協力事業に有効に使わせていただきたく存じます。

会費納入のお願い：本年度会費の未納の方は早急にお納めいただきますようよろしくお願い申し上げます。

翻訳のご協力：本会の海外技術協力事業におきまして、日本のし尿処理や衛生改善の経験を伝え、現地の条件になじむような技術を見出すことを考えています。一方、し尿研究会の今年度事業として昨年出版されたトイレ考・屎尿考の翻訳が進められています。2つの分科会の活動をジョイントさせ、現地での説明会などで翻訳したものを活かすことができれば、本会らしい協力事業になっていくのではないかと思います。翻訳や説明会資料などでご協力いただける方がおられましたらご連絡いただきますようお願いいたします。

編集後記 ▶いよいよ、海外技術協力事業のスタートが切られました。ある程度予想ならびに覚悟していたこととはいえ、必要な手続き、プロジェクトの進め方など、日本のペースとの違いに戸惑うことは少なくありません。こちら側の経験不足に起因するところも多々あると思いますが、はじめから経験豊富ということはありません。会員の皆様の協力・ご支援の下、草の根的に進めていきたいと考えています。▶草の根的というのは、現地の人々のニーズに基づいて、現地で供給可能な資金と人材で設置や管理が可能で、かつ現地の人達の幸せにつながる技術を考えたいという意味です。我々がそれをサポートできたら、我々の幸せにもつながるのではないかと考えています。▶ふくりゅうの発行が前号からかなり間が開いてしまいました。活動が多様になっただけに、伝えなければならないことは多いのに十分伝えられない

点反省しています。関西支部の活動についてにつきましては右下の URL を参考にしてください。東京のホームページもタイムリーに情報発信しなければと思っています。

(酒井 彰)



◀プロジェクトサイトの子供たちに囲まれる保坂さん (Bangladesh, Munshiganji 県, Bazegaon 村にて、6月8日)

特定非営利活動法人 日本下水文化研究会
〒162-0067 新宿区富久町6-5 NJS富久ビル別館3F
TEL & FAX 03-5363-1129 e-mail: jade@jca.apc.org

ふくりゅう 通巻38号目次

第8回日本下水文化研究会総会報告	1
バルトン忌開催のお知らせ	2
し尿研究会第28回例会報告 し尿研究会第29・30回例会案内	3
平成16年度予算書の修正について 2005年「雨水東京国際会議」へ	4
本会海外技術協力事業が地球環境基金助成金に採択されました 東本願寺と環境を考える市民プロジェクトより	5

「ふくりゅう」では、原稿募集をしております。「水」について思うこと、身近な話題、会に対するご意見やご提案、どのようなことでも結構ですから事務局までお送りください。

ホームページもご欄ください

<http://www.jca.apc.org/jade/index.htm>

関西支部 <http://www1.kcn.ne.jp/~k-atsumi/>